

○編集幹事会

日時 平成 17 年 5 月 9 日 (月)
 場所 B 会議室
 議題 東京女子医科大学雑誌 75 巻 7・8 号査読結果
 審議, その他について

○第 21 回吉岡弥生記念講演会

(第 332 回東京女子医科大学学会例会)
 日時 平成 17 年 5 月 23 日 (月) 午後 2:00~4:00
 会場 東京女子医科大学 弥生記念講堂
 次第 平成 17 年度吉岡弥生研究奨励賞授与式
 前年度受賞者研究発表
 「弥生先生を語る」
 昭和 25 年卒 荒木律子
 「吉岡彌生先生と博人先生—東京女子医大の
 発展期—」
 順天堂大学客員教授 酒井シヅ

○集会幹事会

日時 平成 17 年 5 月 31 日 (火)
 場所 B 会議室
 議題 第 332 回例会, 評議員会, 第 71 回総会, 学会
 室所属異動について

5 月に横浜で開催された日本病理学会総会は, 参加者も多く, ポストゲノム時代の要請に応えた優れた研究が多数報告され, 英国病理学会からの招聘で Dr. J.C.E. Underwood が「Patient-centered histopathology: the new professionalism」の題で特別講演をされ, 医療の場に病理医が積極的に参加する重要性を説き, さらに「病理医—病気の最終診断をする医師達」と題した市民フォーラムも開かれて, 病理医に対する社会的認知が広くアピールされた。

さて, わが学会を顧みると, 参加者の減少と雑誌への投稿論文の減少をふくむ幾つかの問題に直面している。国立大学においては, 独立法人化という改革が進むなかで, 教育・研究のみでなく, 医療機関としての経営努力など, 従来とは異なる社会への貢献が求められている。研究者にとり問題となるのは, 業績を impact factor の高い雑誌に公表することを好ましいとする風潮である。事実, 次代を担う若い研究者が, 言語の問題にとらわれることなく, 科学的論理の展開の場として海外で刊行される学術誌に, 独創性にとむ質の高い研究を報告している。しかし, その採択率は依然として低い。そこで, 臨床および基礎研究を相対する立場から考えるのではなく, impact factor とは異なる次元で評価され, 医療情報を共有するための学術誌が創刊され, 我が国から Nature や Science などに対峙しう学術誌として育てようとの論議がなされている。

我々の学会誌についても, 単に学会の会報誌とするのか, 会員の生涯教育のための総説誌とするのか, あるいは新知見を発表する学術誌としての地位を維持すべきかななどの議論が充分に行われる必要がある。学会の活性化に関する議論には学会の役割そのものが問われていると感じるのは私一人であろうか。

(2005.5.31, 小林慎雄)

編集担当幹事: 相羽元彦	岩本安彦	亀岡信悟	小林慎雄	久保長生	三木伸泰
泉二登志子○	中澤 誠	大貫恭正	斎藤加代子	澤口聡子	玉置 淳
田中美恵子	寺岡 慧◎	内山真一郎	山内克巳	渡辺伸一郎	吉岡俊正

(ABC 順, ◎委員長, ○副委員長)

東京女子医科大学雑誌 75 巻 7・8 号: 平成 17 年 8 月 25 日発行 (毎月 1 回発行)
 Journal of Tokyo Women's Medical University: Vol. 75 No. 7・8 August 25, 2005
 発行者: 高倉公朋
 発行所: 東京女子医科大学学会
 事務局: 学会室 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学
 Tel & Fax: 03-5269-7403/E-mail: gakkai@hq.twmu.ac.jp
 購読料: 年会費 6,000 円に含む。1 冊定価 1,000 円 (税・送料含む)
 振込先: 学校法人 東京女子医科大学学会
 UFJ 銀行東京女子医大出張所 普通 3643723/郵便振替口座 00150-4-4342
 印刷: 株式会社杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10 Tel: 03-3910-4311/Fax: 03-3949-0230
 広告扱い: 日本医学広告社 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8
 Tel: 03-5226-2791/Fax: 03-5226-0195

* 本誌の内容を無断で複写・複製すると, 著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。